

平成26年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	太良町立多良中学校		
2 所在地	藤津郡太良町大字多良 1284 番地		
3 校長名	植松和彦		
4 学級数 児童生徒数	8学級 164人	5 実施学年 児童生徒数	1年 60人

6 取組のねらい

- (1) 体験学習を通じて、ユニバーサルデザイン（UD）とバリアフリーとのちがいについて理解させる。
- (2) 身近なUDについて調べたり、障がい者体験をしたりすることでUDの必要性やそれらを生かそうとする心情を育てる。

7 取組の実際

(1) UDについての事前学習

UDとバリアフリーのちがいやUDの7原則（公平・柔軟・簡単・理解・安全・省力・空間）についての説明を行い、学習を進めていく内容について伝えた。

(2) 身近なUD施設や製品についての調べ学習

身近にあるUD施設や製品について、1人1個ずつ、インターネット等を使って調べ学習を進め、パワーポイントによりまとめたもの



何のUDでしょう

- 1 いろんな形に変えることができる。
- 2 お年寄りや子供でも簡単に使うことができる。
- 3 食べ物を食べるときに使います。
- 4 いろんな種類があります。
- 5 誰でも持ちやすい。
- 6 食べやすい。

何のUDか、わかりましたか？

のを発表することで、UDの7原則がどのように生かされているかやUDとして気付かなかったことについての理解を深めた。

(3) 障がい者の擬似体験

太良町社会福祉協議会から社会福祉士の方に来ていただき、その方の指導の下で、ちがった障がいを対象とする4、5名のグループ（視覚・聴覚障害、妊婦、外国人、足の骨折）ごとに行動し、日常感じない校舎内の障害となるものを確認し、UDや助け合うことの大切さなどについて体験的に学習を行った。



(4) 嬉野高校生（福祉系列）によるUD講演

UD学習のまとめとして、嬉野高校生による発表を聞き、UDとバリアフリーのちがいやUD製品の体験を行った。スクリーンに映し出される文字の大きさや色使い、発表の声や表現の仕方などもUDにつながる誰にでもわかりやすいものだと感じ、中学生も参考にしていきたいと関心をもって聞くことができていた。

また、高校生の解説を受けながらUD製品に直接ふれることや身近にあるUD製品を知ることで、興味をもって意欲的に学習を進めることもできた。



8 取組の成果と課題

生徒たちは「UD」について知ることができ、UD施設や製品が増えることで、いままで障害と感じていたものがなくなったり、負担が少なくなったりするということを学んだ。また、最も効果的なUDは、一人一人の「思いやり」の心だということを感じ、UD施設や製品がなくても、自分たちが手助けできることをすることでUDになるのではないかという意識をもてるようになってきたように思える。年令の近い高校生に教えてもらうことで、より意欲的に学習するとともに、進路の学習にもなった。

今後、日常の中で、学習したことをいかに意識して活動できているか、今回の学習で終わりではなく、今後も継続して学習し、それらを生活の中でいかに生かしているか、それらを確認できる機会をもつようにすることが必要だと思われる。